

<指導上のポイント>

「空間と位置」の問題は、高い知性を育てるために、確実にマスターしておきたいものです。まず、全ての問題で、問題の意味を理解させて解答させましょう。きちんと理解できていないようなら、日常生活の中で正しく理解できるようにしましょう。

例えば、14ページの「左右判別」問題は、子供と一緒に歩いているときに、体ごと右に回らせたり、左に回らせたりして体で覚えるようにすると、すぐに理解できるでしょう。

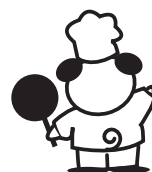
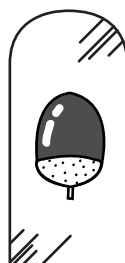
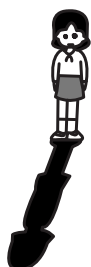
8・9ページの「光の方向」問題が理解できないときは、太陽や電灯の下で、影がどのようになるかを見せて実感させます。光は直進しますので、太陽の中心から物体の中心まで直線を引くと、影の方向がわかります。

10・11ページの「風向き」問題が理解できないときには、扇風機などを利用して、風の方角によって物がどのようになるかを実験するのが良いでしょう。

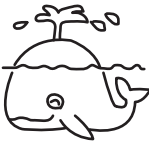
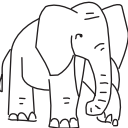
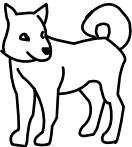
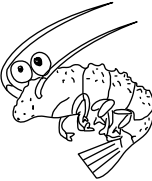
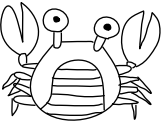
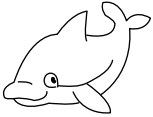
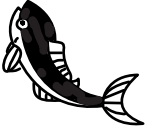
ただ、「鏡絵」「後ろ姿」「水面の姿」「方向知覚」の問題については、下記のように理解するようにしてください。

空間とは、上下、前後、左右の3つの座標軸で構成された三次元空間のことですから、これに関連付けて説明してください。

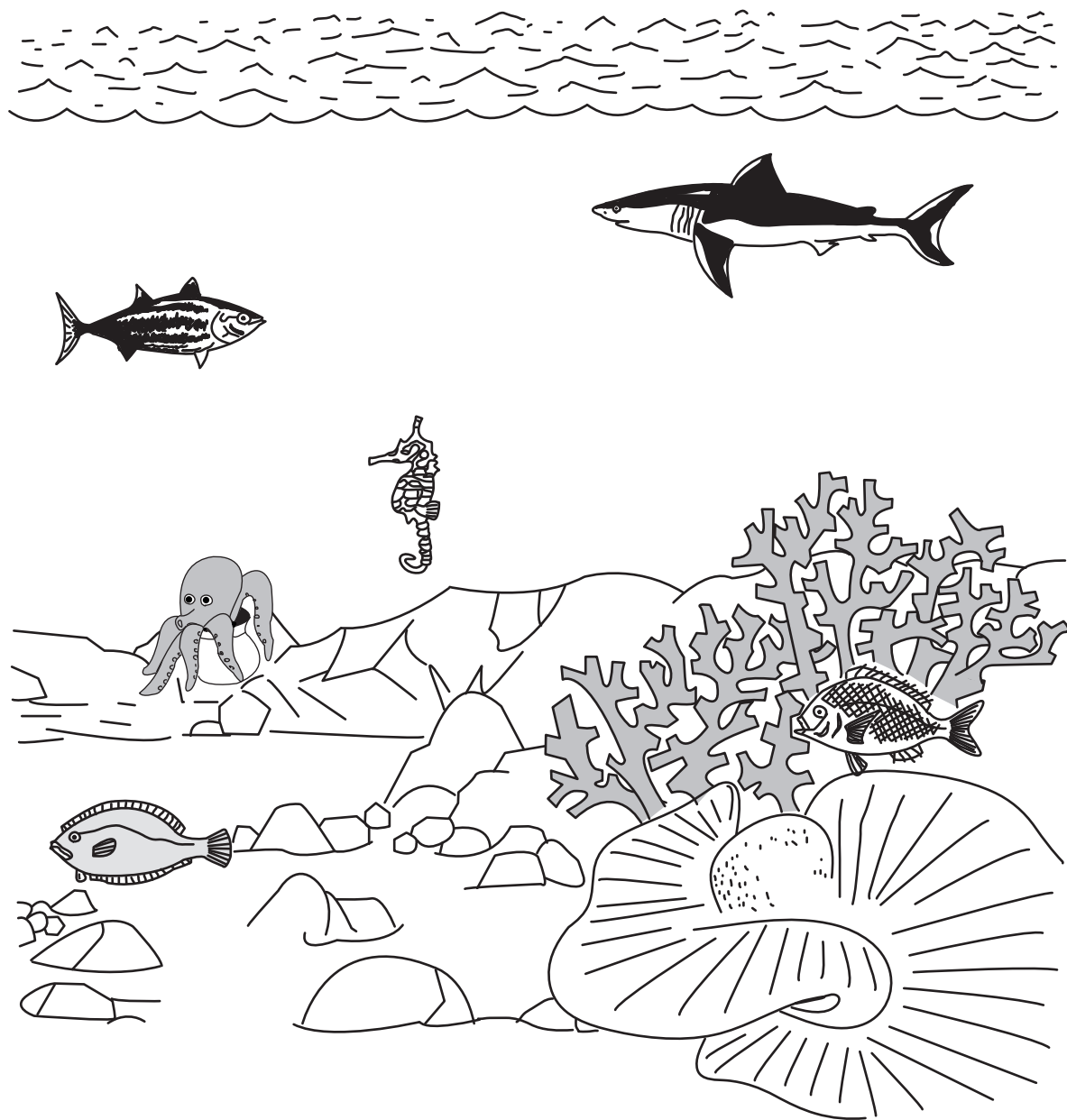
つまり、「鏡絵」は左右が逆転しているし、「後ろ姿」は前後・左右が逆転しているし、「水面の姿」は上下が逆転しているし、「方向知覚」は前後・上下・左右が逆転しているという具合に指導してください。



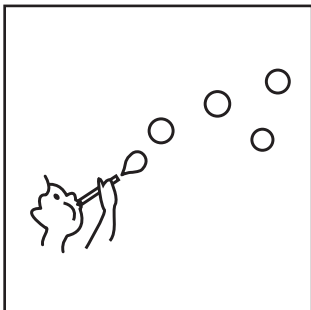
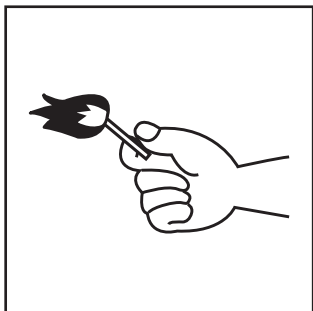
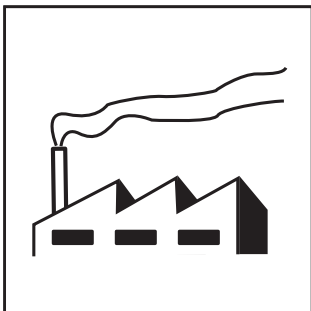
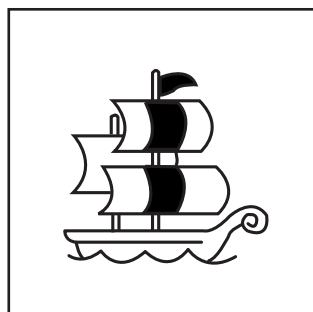
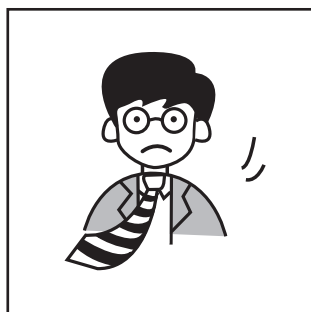
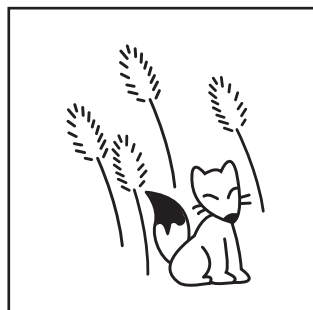
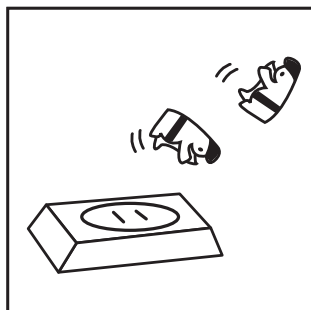
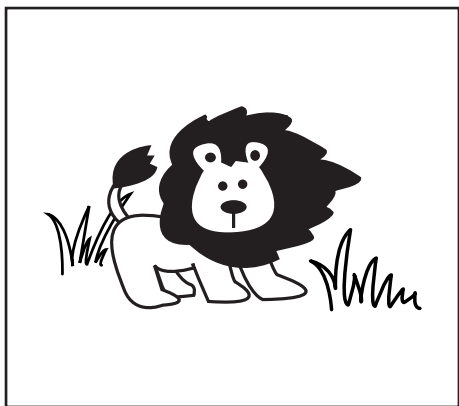
<影絵> 左の影は、右のどの絵のものですか？見つけて
○をつけなさい。答えが2つあるときもあります。

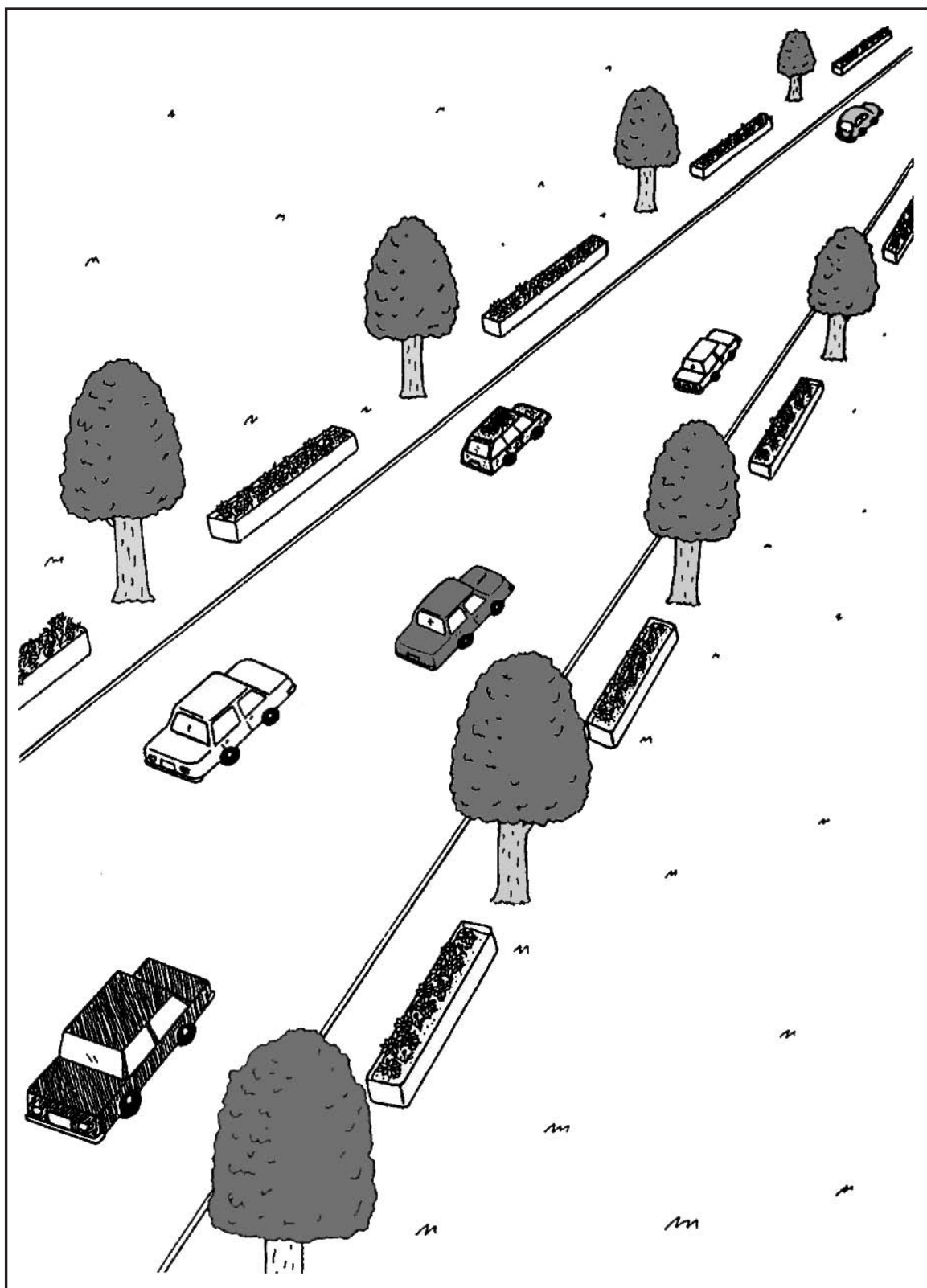
＜深浅＞ 一番深いところにいる魚に○を、一番浅いところにいる魚に△をつけなさい。



<風向き②> 左の絵と同じ方向から風が吹いているものを、
右の絵から見つけて○をつけなさい。

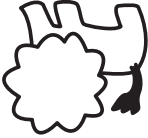
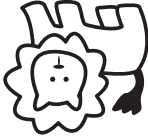
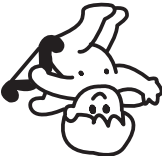
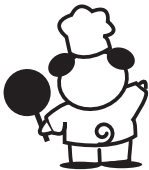
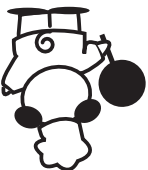
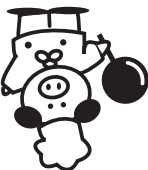
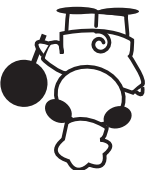
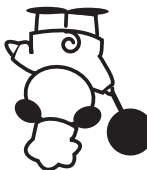
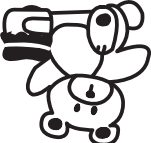
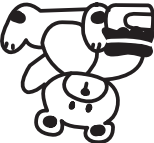
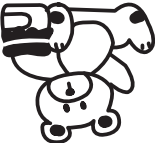
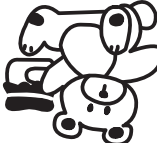


- <遠近> ① 3番目に遠くに見える車に○をつけなさい。
② 2番目に近くの木に△をつけなさい。



<水面の姿①>

左の絵が水面に映った姿は、右の四つの絵のどれになりますか？
正しいものを見つけて○をつけなさい。

	→				
	→				
	→				
	→				

<方向知覚④>

上の絵で、タヌキから見た絵に○をつけなさい。

